

# ボランティア兵庫

2007年 8月号

## CONTENTS

- 西宮ボランティア連絡会25周年を迎えて ～これからも絆を大切に～ ..... 2・3
- 「ひよこ」から「にわとり」へ? ..... 4
- ミプロキッズフェア2007  
ひょうごボランタリー基金助成制度のご紹介 ..... 6



(写真：酒蔵館)

「西宮市・酒ミュージアム」西宮は宮水・稷播の米・六甲風の吹く気候という好条件から、酒の主産地として発展してきました。宮水とは「西宮の水」という意味で、味や香りを悪くする鉄分が非常に少なく、発酵に必要なリン・カリウムを豊富に含む良い酒をつくる上で理想の水です。この宮水で仕込んだ灘酒は夏の暑さにも劣化せず、秋には一段と味が冴えることから「秋晴れ・秋映え」のする酒といわれています。





# も絆を大切に～ 連絡会



**昭和57年、横のつながりを求めて、連絡会を結成!**

西宮市では昭和40年代後半に、婦人層を中心に、児童・高齢者・障害者等の各分野のボランティアグループが生まれました。その後、ボランティア交流会、ボランティアササデースクール等の開催を通して、連絡体が必要という気運が高まり、昭和57年6月に38ボランティアグループが結成されました。結成翌年には、市社会福祉協議会ボランティアセンターと「ボランティア入門講座」を共催で開講。また、市福祉大会のボランティア



仮設住宅でのふれあい交流会

震災時には、連絡会として、長期的に復興活動を行いました。仮設住宅での交流活動では、自身も被災したにもかかわらず、多くの会員が応援に駆けつけてくれ、グループの垣根を越えて活動を行いました。人形劇、手話コーラス、民謡や、綿菓子やたこ焼きなどの屋台での活動は、「同じ被災に合った西宮市民同士の交流活動」として、とても励まし合うことができました。手話で懐かしい「ふるさと」を皆で歌うと、聴力に障害のある方も一緒に「あ」として

**平成7年 阪神・淡路大震災では震災復興活動を開始!**

活動パネル展を3年間行うことで、市民へのボランティア活動の啓発をすると共に、連絡会の結束が、より固まることとなりました。その頃に、連絡会からボランティアセンターへ、ボランティアコーディネーターとして4名の派遣を行いました。その中で、他市にさががけ、ボランティアセンター機能が整備・拡充されたことは大変嬉しいことでした。私たちもボランティアセンターを拠点に、互いに研修し、交流し、協力しあつて、ボランティア一人ひとりが成長することが出来たと思います。



研修会「レクリエーション演習」

も楽しい時間が過ごせた」と喜んで下さいました。「震災の記憶が風化しないようにと、その後「ボランティアの記録集」を各グループの協力を得て発刊しましたが、昨日のこのように思い起こせます。



# 25周年を迎えて～これから 西宮ボランティア

## 25周年記念“絆”

紙ふうせんによる

うたとトークのつどい

を開催

本年3月24日（土）、市内のホールにて25周年記念事業を二百数十名のボランティアや関係者の参加を得て、開催しました。

式典では、主催者挨拶、来賓からの祝辞を頂戴した後に、25年間のこれまでの歩みをスライドで振り返りました。会場からは「懐かしい」との声が飛び交う一方で、最近、活動に入った方からは、「これまでの活動の歴史がよく分かった」という声も多くありました。

式典の後のコンサートでは、紙ふうせんのお二人が市内在住ということもあり、自身の震災時のボランティア活動や、現在の身体障害者補助犬のPR活動についての話を聞くことができ、とても和やかな時間が流れました。

また10曲以上、熱唱された中で、特に代表曲「翼をください」では、会場全体が大合唱となり、これからの連絡会の活動への意欲が高まる一日となりました。

## 絆を大切に

現在、41ボランティアグループ

が加盟し、それぞれの分野でのボランティア活動を市内各地で行っています。これからもグループ相互の研修や交流活動を積極的に行っていくとともに、西宮市のさら

なる福祉向上の一翼を担う連絡体として、これまで培ってきたグループ間の絆を大切にしながら、活動していきたいと思えます。



25周年記念“絆” 紙ふうせんによるコンサートの様子



# 「ひよこ」から「にわとり」へ?

発足から震災まで

1983年に発足した点訳ボランティアグループ(点V連)が兵庫県ボランティア協会の依頼を受けて、点訳入門講座を1985年9月から兵庫県福祉センターで毎週火曜日に開かれました。10回の講座を終え、講座に参加していた20名ほどの方たちから「せっかく勉強したのだから会を作って活動したい」との希望でその年の12月に「ひよこの会」が発足し、翌年より活動を開始しました。

そして、当時ボランティア協会とかかわっておられ、また、点V連の発起人で昨年他界された木村文子さんより『ボランティア兵庫』の点訳をしてはどうかとのご指示があり、勉強を兼ねて点訳することになりました。当時は点字版、点字タイプライターの点訳ですから、校正されたもの

のを修正するのが大変で何度も書き直しをしてやっと仕上げました。

そういう状況の中で、点V連の事業が1987年から開始され、視覚障害者からの依頼の一部を点訳できるようにになりました。その間『ボランティア兵庫』は毎号点訳を続けており、点訳の基礎などを習得することができました。そうこうするうちに1987年にIBMのご好意でパソコンが貸与されパソコンによる点訳が普及し、点訳の形態・量も多くなり、私たちのグループもパソコン点訳をするようになりました。

震災から今日まで

1995年の阪神・淡路大震災のときは私たちのグループの大半が被災しましたが、幸いにも亡くなられた方はいませんでした。なにしろ交通

が途絶えていたので集まることができず、やっと例会を持ったのは5月に入ってからだと思います。

以前は『ボランティア兵庫』も人数の多いときは一人1冊を仕上げていました。震災以来人数が減ったので1冊を二人でというふうになりました。今ではパソコンですから一人で1冊分を点訳することが

でき、8冊をプリントアウト(点字印刷)して読者に送付しています。

例会は第1・3火曜日の午後、神戸市立東部在宅障害者福祉センターでワイワイガヤガヤとにぎやか、かつ真剣



に話し合っている様子。これからも少人数(男性一人を含む12人)ですが細く長く続けていきたいと思っています。

「ひよこの会」会長 松本敏子  
(文責:井上美智子)

## ◆おうちで、「書き損じはがき」と「宝くじのはずれ券」が眠っていませんか◆

兵庫県ボランティア協会では、「書き損じはがき・未投函の往復はがきの半片」や「宝くじのはずれ券」をご寄贈いただき、ボランティア活動推進の資金に活用する運動を展開しております。皆さまのご協力をお願いいたします。

●お願い● 年賀はがき・官製はがき・往復はがきなどは、消印のないものに限りです。

**【送り先】 兵庫県ボランティア協会**

〒650-0044 神戸市中央区東川崎町1-1-3 神戸クリスタルタワー10F  
ひょうごボランティアプラザ内 TEL / FAX (078) 360-8181



● 財政支援会員（個人・団体）

斉藤 郁子 岡本 栄一 長塚 和子  
 岩坂 満子 金山 實 狩俣 健  
 喜多貴世子 小西 靖郎 木南 洋子  
 笹谷 重治 玉木 純一 戸田 幸男  
 西原 信子 羽賀比登志 原田 芳子  
 片山たづ子 藤原 一 藤原 君代  
 望月佐和子 魚橋 武司 皆川恵美子  
 宮先 一勝 入江 光世 松尾 郁子  
 平瀬 謙治  
 社会福祉法人曾根福祉会 母子生活支  
 援施設 そねホーム

● 古切手

本岡 猛 山田 一休 荒川 喜代  
 佐保 誠澄 鷺見美恵子 松尾 郁子  
 武市久美子 伊藤美登利 匿名  
 ふれあいリサイクル委員会  
 メイテック労働組合 西部事務所



協力者ご芳名（順不同・敬称略）  
 平成19年3月11日～平成19年7月10日

神戸市立福住小学校  
 姫路市役所前郵便局  
 兵庫県教育委員会 中播磨教育事務所  
 兵庫県企業庁 管理局水道課  
 アリコジャパン神戸リレーションシップセンター  
 商船三井興産株式会社  
 (社)兵庫県シルバー人材センター協会  
 財団法人兵庫県身体障害者福祉協会

兵庫県神戸県民局 企画県民部総務課

● ロータスクーポン・ベルマーク・プリペイドカード  
 松尾 郁子 伊藤美登利 鈴木みつ子  
 入江 光世 匿名  
 商船三井興産株式会社

● 書き損じハガキ・未使用ハガキ・未使用切手  
 鷺見美恵子 高橋 美子 鈴木みつ子  
 松尾 郁子  
 神戸製鋼所労働組合 神戸支部  
 アリコジャパン神戸リレーションシップセンター

● 宝くじはずれ券

林 志津子

● 寄付金

横井 輝雄 成田 直志 松岡 克博  
 馬場 正一 西村 利也

平成19年度 兵庫県ボランティア協会通常総会開催される

平成19年度事業方針

「ボランティア活動の必要性・意義を伝え、  
 福祉のまちづくりへの参画・協働の輪を広げていきます」

● 具体的な事業の柱

- (1) 私たちは、県内のボランティアの力を結集させます
- (2) 私たちは、ボランティア活動の情報を発信します
- (3) 私たちは、ボランティアの社会的地位の向上を目指します
- (4) 兵庫県ボランティア協会の基盤強化を図ります



● 兵庫県ボランティア協会 創立40周年記念事業を11月に予定しています。  
 多数のご参加をお待ちしています。詳細は追ってお知らせします。

平成19年6月30日（土）に、ひょうごボランティアプラザ会議室にて通常総会が開催され、平成18年度事業報告、平成18年度決算報告、並びに、平成19年度事業方針・事業計画、平成19年度予算等が承認されました。併せて役員  
 の提案に対し、活発な意見要望がなされ承認されました。



# ミプロキッズフェア2007

## 兵庫県おもちゃライブラリー連絡会が出展

ミプロキッズフェアは、障がいを持つ子ども達とご家族のための情報を一堂に集めた、来場者参加型の福祉機器展示会です。

5年目の今年のテーマは「夢と可能性の発見」。子ども達に「こんなことができる!」「あんなことをしてみたい!」「将来こんな職業に就きたい!」そんな夢を広げるきっかけを、たくさんご用意しました。

入場無料!

【開催日】 9月8日(土)・9日(日)  
午前10:00~午後5:00

【会場】 神戸国際展示場3号館

Discovering of Dream & Possibility  
夢と可能性の発見!!

## 現在募集中のひょうごボランタリー基金助成制度のご紹介!

ひょうごボランタリープラザでは、現在下記の助成制度の募集を行っています。  
詳しくは、ひょうごボランタリープラザのホームページをご覧ください。

### 県民ボランタリー活動助成

県民の地域活動への主体的な参加を促し、ボランタリー活動の裾野を拡大するとともに、県民自らが行うボランタリー活動の支援を通じて、活動の安定的かつ継続的な発展を図ることを目的とした助成事業を行っています。

・助成額：3万円（エントリー受理数により助成額を決定しますので、3万円より減額となる可能性があります。）

助成金の交付を受けようとするボランティアグループ・団体は、活動を行っている地域の各市区町社会福祉協議会でのエントリー（事前申し込み）が必要です。

エントリー（事前申し込み）の締め切り：9月7日（金）

↓  
エントリーを受理されたグループ・団体は、助成条件（活動日数、経費支出額等）を満たした後、助成金の交付を申請してください。

詳しくは、活動を行っている地域の各市区町社会福祉協議会もしくはひょうごボランタリープラザまでお問い合わせ下さい。

### 行政・NPO協働事業助成（NPO提案型）

地域の課題解決や活性化に向け、行政とNPOの協働を通じて、より高い効果を得ることができると事業を推進するため、第1年次にNPOが事業企画を提案し、第2年次にNPOが行政の協力を得て事業化計画の立案に当たり、第3年次にNPOと行政が事業を軌道に乗せる3段階の助成プログラムを実施しています。

第1年次	NPOによる事業の企画提案書の作成	助成額30万円以内
第2年次	NPOによる事業化計画書の作成	助成額60万円以内
第3年次	NPOと行政による協働事業実施	助成額100万円以内

応募締切：平成19年8月31日（金）

助成対象団体：NPO法人又はNPO法人に準ずる団体

～お問い合わせ～ ひょうごボランタリープラザ（兵庫県社会福祉協議会）  
TEL:078-360-8845 URL: <http://www.hyogo-vplaza.jp/>

★この機関紙は、ひょうごボランタリー基金の助成を受けて発行しています。★